

(協働版)

※ (協働版) とは...

プロファイルを作成した27箇所の歴史的資産周辺において、地域のみなさまとの協働による景観づくりを進めるため、ヒアリングやまち歩きなどの取組を通じ、その地域固有の歴史的資産の特徴、まちの成り立ち、歴史、文化等といった地域ならではの情報や地域のみなさまの思いなどの情報を取りまとめたものです。

※古地図などは以下のホームページで閲覧できます。

京都市 景観情報共有システム

検索

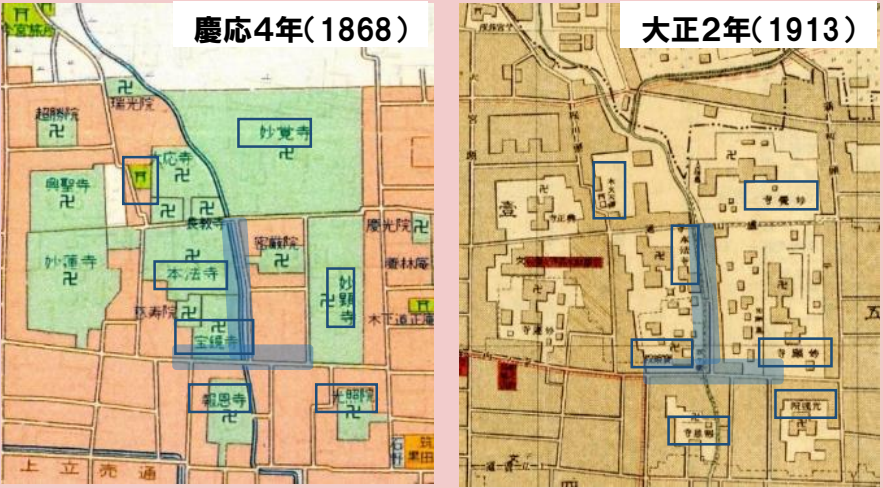


■室町学区 烏丸通西側北部

室町学区と室町時代
室町学区は、その昔室町幕府が造営された地であり、室町時代には、政治・文化の中心地であった。足利将軍の邸宅は「室町殿」「花の御所」とも呼ばれ、室町幕府の政所が置かれた。室町時代に描かれた洛中洛外図屏風にも現在も残る寺社や通りの様子が描かれている。1-1)

寺院の集積

豊臣秀吉の京都改造に際し、小川通が開かれた。度々の移転や江戸時代の天明の大火に見舞われるが、現在も寺之内界わいには日蓮宗の寺院が集積している。



江戸時代から大正時代の界わいの地図を見ると、ほぼ現在と同様の寺社を確認することが出来る。

室町学区には、寺之内界わいに限らず、古くから寺社仏閣が多く、現在も寺社仏閣由来の町名が多く残る。

1



1 妙顕寺
日像上人により建立された京都における日蓮宗最初の寺院。豊臣秀吉が京都の宿所として利用した。1-2)

2



2 妙覚寺
足利義輝、織田信長、伊達政宗などが宿所として利用し、千利休が茶会を開いた寺。大門には城門特有の両潜扉、梁の上には伏兵のできる空虚がある。1-3)

3



3 本法寺
「巴の庭」, 「佛涅槃図一幅」など多くの重要文化財が所蔵されており、多くの芸術家に愛された寺。4)

4

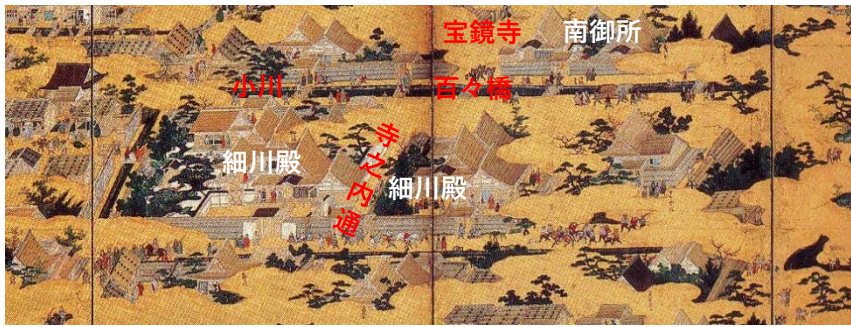


4 報恩寺
豊臣秀吉が聚楽第に持ち帰ったが、激しい鳴き声のせいで眠れず翌朝には寺に返したという「鳴虎図」の逸話が残る。1-5)

凡例：

文献等
による情報

まち歩きやヒアリング
による情報等



5



5 光照院門跡
浄土宗単立の尼門跡寺院。毎年4月には降誕祭と雛祭が開催される。1-6)



庭園には樹齢500年の五葉松がある。



報恩寺山門前の石橋や、百々橋跡が、「小川（こかわ）」の流れの名残を今に残す。

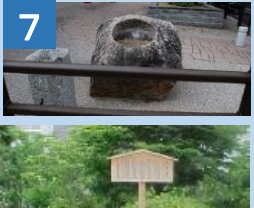
史跡等

6

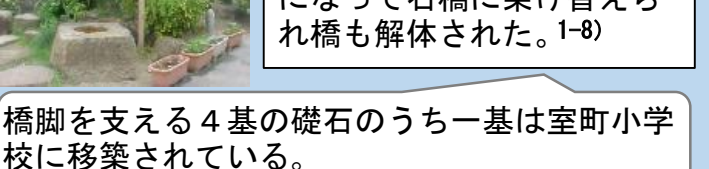


6 尾形光琳墓所
江戸中期の画家、狩野派の山本素軒に画を学んだが、画風は俵屋宗達の影響を強く受けた。1-7)

7



7 百々橋跡
応仁の乱の際、東軍西軍の両軍が、橋を隔てて数度にわたり合戦をおこなった。古来板橋であったが、近世になって石橋に架け替えられ橋も解体された。1-8)



橋脚を支える4基の礎石のうち一基は室町小学校に移築されている。

【周辺の特徴】

- ・ 応仁・文明の乱の際、東軍と西軍がこの地にて合戦を繰り広げた。
- ・ 豊臣秀吉の京都改造に際し、小川通が開かれ、この地に多くの寺院が集められた。
- ・ 寺之内界わいの寺院は日蓮宗が多く、日本文化史を代表する茶人、文化人、芸術家たちと繋がるエリアで、妙顕寺の他、妙覚寺、本法寺などがある。
- ・ 小川通には表千家、裏千家の家元屋敷が並び、茶道文化の中心である。
- ・ 時代を経て蓄積された歴史的環境が現在も生き続け、界わいの寺社群や茶道文化の中心施設が集中しており、これらを一体として優れた歴史的景観が形づくられている。

上杉本
洛中洛外図屏風左隻
永禄8年（1565年）頃

茶道文化の発展

「応仁の乱」以降、織物を主要産業として上京の町が復興され、その後、千利休の子孫が当地で茶道家を営むことになり、茶道文化の殿堂の地を形成してきた。小川通には、現在も、表千家・裏千家の家元が軒を並べている。

8



8 裏千家今日庵

9



9 表千家不審菴



金龍水

上京には名水が数多くあり、暗渠となった小川や足利三代将軍義満公が愛用したといわれる金龍水など名水の歴史が多く残る。

町並み

10



10 百々橋跡から小川通北を見る

上京小川歴史的景観保全修景地区
小川通を中心として、織屋、商家と寺社や茶道家の門構えが地域固有の町並みを構成し他では見られない風雅な景観を呈している。1-9)

平成29年度には、地元の要望を受け、小川通の無電柱化及び石畳風舗装整備が完了した。

自然、地域活動

11



11 新生さくら広場
通称「三角公園」。京都市の市民参加型事業のモデルとして選定された「さくら広場プロジェクト」実行委員会を中心に広場周辺の住民らが整備し管理している。

桜のみならず、四季折々の花々を楽しむことができる。

■室町学区 烏丸通東西部

凡例： 文献等による情報

まち歩きやヒアリング
による情報等

【周辺の特徴】

- ・室町小学校の校名は、所在地の室町頭町から由来するが、室町幕府の造営された地として有名である。
- ・学区内には、史跡、由緒古い寺社も多く存在する。また、伝統的な織物の町として栄えた西陣の東端に位置する。

歴史的資産（寺社・史跡等）

1



相国寺
現存する法堂は日本最古の法堂建築として慶長9年（1605）に再建された。夢窓疎石を開山とし、創建当時は室町一条あたりに総門があったといわれ、北は上御霊神社の森、東は寺町通、西は大宮通にわたり、壮大な敷地に五十余の塔頭寺院があった。²⁻¹⁾



足利義満の墓や伊藤若冲、足利義政、藤原定家の墓も存在する。



地域の生活通路としても使われており馴染み深い。

2



慈照院
相国寺の塔頭。応永11年（1405）前後に在中禅師が創建した。はじめは大徳院と称されていたが、その後慈照院と改号された。²⁻²⁾

3



持明院仙洞御所跡
元々は藤原基家の邸宅であったが、後高倉上皇・北白河院、後堀河上皇の仙洞御所（上皇の居所）となった。²⁻³⁾

4



三時知恩寺
明治まで浄土宗の尼門跡寺院だった。由来は後柏原天皇の時、宮中の1日6回の六時勤行のうち、昼間の3回をこの寺で行うようにと勅命されたことによる。²⁻⁴⁾

5



大聖寺と室町殿石敷遺構
元々は、足利義満が天授/永和4年（1378）に邸宅室町殿として築造したものである。花の美しい庭園があることから「花の御所」と呼ばれていた。²⁻⁵⁾

6



平成14年の同志社大学寒梅館の建設に伴う発掘調査でその石敷跡が発見され、その一部が展示されている。

7



冷泉家住宅（重要文化財）
現存する公家住宅では最古。近世初頭以来の土地を守り、寛政2年（1790）に再建された建物と、その配置構成は旧制を忠実に伝えた貴重な遺構として知られる。²⁻⁶⁾



教育施設の集積

8



同志社大学
5棟が重要文化財に指定され、明治期の近代化を象徴する独特の景観を形成している。²⁻¹⁰⁾



創立当時の様子

寒梅館では、地域に開かれたイベント等も開催されている。



致遠館の建替工事に伴い実施された調査では、貴重な公家町遺跡が発掘された。

歴史的資産（町家等）

11



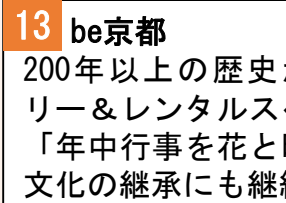
京菓子資料館
老舗俵屋吉富に代々伝わる資料や収集された資料をもとに、古くより神社の儀式や宮中の催しや茶事、そして季節ごとの生活文化と共に伝えられてきた京菓子文化の総合的な資料館。²⁻⁷⁾

12

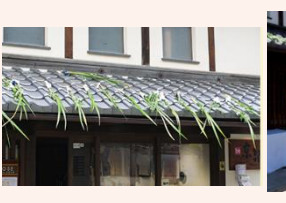


河村能舞台
観世流故河村禎二氏により稽古場として昭和32年に建てられた。学生や一般の人のために能楽講座も開催している。²⁻⁸⁾

13



be京都
200年以上の歴史がある京町家を改装したギャラリー&レンタルスペース。建物の保全だけでなく、「年中行事を花と町家で楽しむ会」など、京町家の文化の継承にも継続して取り組まれている。²⁻⁹⁾

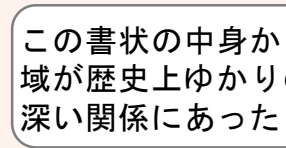


5月「軒菖蒲」の様子
菖蒲の葉を投げ、軒先に飾り、香り高い菖蒲や蓬を家々の軒端に飾ることで邪気を祓うと伝わる。

14



地域固有の歴史的資料（上立売町）
豊臣秀吉や前田玄以の書状が、西陣織の織額によって大切に保管・展示されており（原本は歴史資料館に保管）、上立売通から誰でも確認できる。



この書状の中身からも、この地域が歴史上ゆかりのある人物と深い関係にあったことが伺える。

9



室町小学校
平成31年に150周年を迎えた。建替えられた新校舎は、八角形の特別教室のある旧校舎の雰囲気を受け継いでいる。²⁻¹¹⁾

10



烏丸中学校
明治44年（1911）に市立染織学校が設置され、その後様々な学校に変遷し昭和26年に現在の烏丸中学校となる。²⁻¹²⁾

室町小学校では毎年11月には学区最大規模の行事である『室町ふれあい広場』が開催される。

凡例： 文献等による情報 まち歩きやヒアリングによる情報等

都の平安遷都以前からこの地にあったと伝えられる上出雲寺の鎮守とされ古えより崇拝されてきた。御霊とは政争に巻き込まれ、非業の死を遂げた人の霊のことであるが、しばしば悪疫が流行したので、御霊の祟りと考えられそれを祀った。皇居御産土神、都民擁護の崇社。境内は「御霊の杜」と呼ばれ、応仁の乱の発端となったところである。³⁻¹⁾

境内から奈良時代前期と見られる瓦等
が出土しており、飛鳥時代や奈良時代
前期から継続する歴史が感じられる。



←御霊神社保管の瓦
(平成18年(財)京都市埋
蔵文化財研究所発掘調査)

御霊祭
5月に開催される「御霊祭」は、京都最古のお祭とされ貞観5年（863年）に悪疫退散の御霊祭が神泉苑で催されたことが由来。1日の神幸祭（おいで）に始まり、17日の宵宮、18日の還幸祭（おかえり）と続く。還幸祭では3基の神輿（小山郷、今出川、末広）と鉦鉦が氏子域内を練り歩く。³⁻²⁾（巡行ルートは右地図参照）



令和元年、54年振りに神幸祭の神輿渡御が復活された。

近世の氏子域は「京都御役所向大概覚書」によれば、東は賀茂川まで、西は東堀川まで（ただし一条通より北は小川通まで）、北は野限、南は出水通までとある。



『洛中洛外図上杉本左隻』



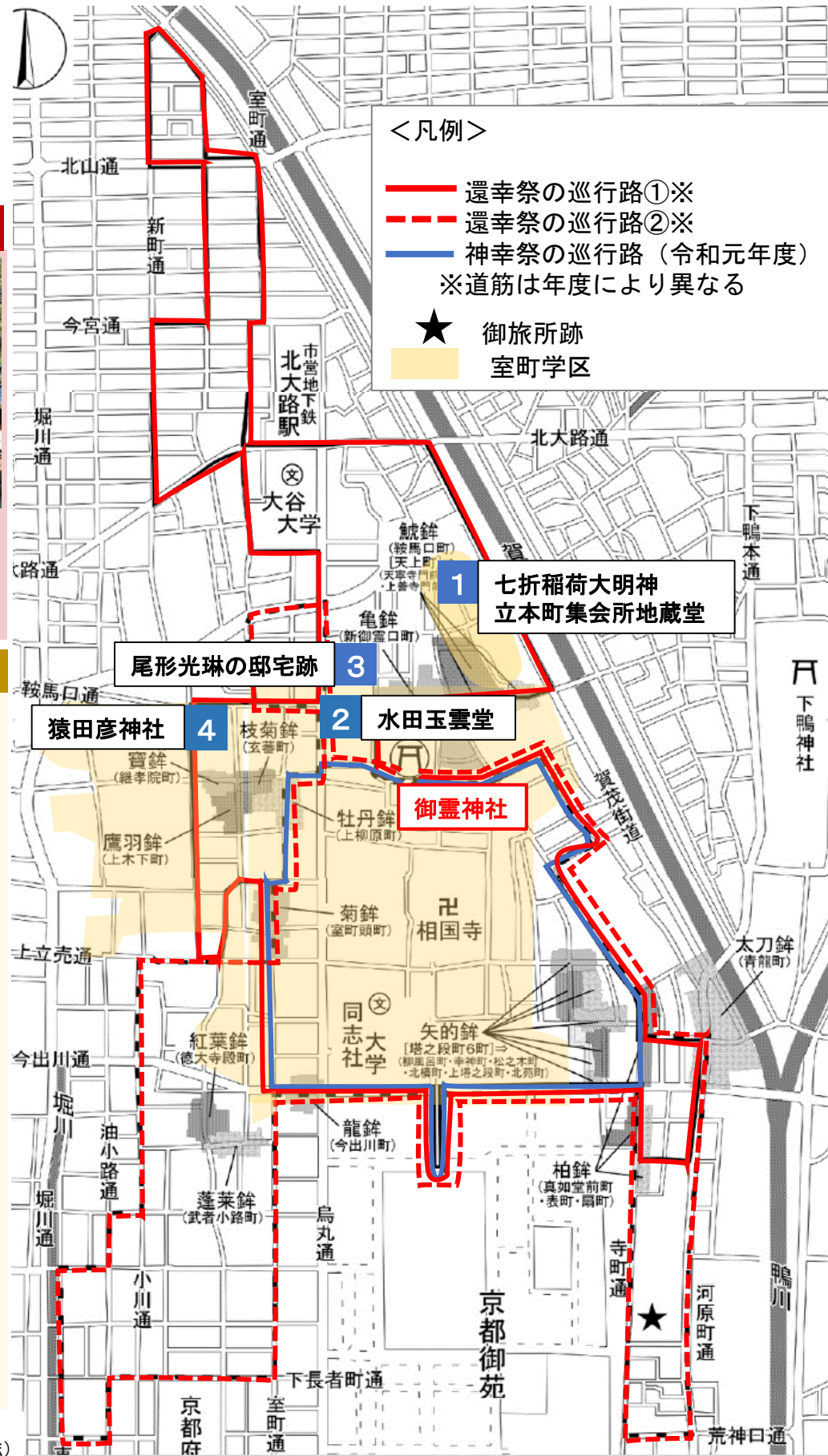
現代の行列の様子

「洛中洛外図」「拾遺都名所図会」「花洛細見図」等、古い書物や絵図にも現代と同様の行列の様子が描かれている。

神社の南堀には一初(イチハツ)が植わる。古くは四季咲きの杜若が咲いていたが、水が途絶え、代わりに一初が植えられた。



現在も「一初
の会」で管理
され沿道の
人々の目を楽
しませている



御霊祭をはじめ、子供神輿、節分祭（豆まき）、御千度などの行事には「氏子青年会」をはじめとする地域住民主体の会の協力がある。



学区の「婦人会」による
境内掃除のご奉仕をはじ
め、地域の方の掃除奉仕
により、境内はいつもき
れいに保たれている。

鴨川より東から
敵を侵入させな
いためと伝わる。

七折稻荷大明神
平安遷都にあたり、桓武天皇が平安京の守り神として崇道天皇の御神霊を御霊神社に祀られた際に、出雲路に祀られるようになった。

現在地に至るまで3回移転しており、昭和26年に現在地に安置された。



立本町集会所地藏堂
出雲路観音や役行者、数体の仏様が祀られる。七折稲荷大明神と同時期に祀られたとされ、現在も立本町で大切に管理されている。



還幸祭では、末広神輿の担ぎ手は七折稲荷大明神に集合し、御霊神社へ向かう。



水田玉雲堂
文明9年（1477）創業で、
日本最古のお菓子と伝わる
「唐板煎餅」を販売する。³⁻³⁾

以前は御霊神社境内に店を構えていた。



尾形光琳の邸宅跡
周辺には、墓所（P1.6）
等、尾形光琳の生活の痕
跡が多数残る。

国宝「杜若図」も御霊神社の杜若を見て描かれたかもしれない。



御霊神社の宮司が
代々宮司をつとめ
ている。

猿田彦神社
かつては、将軍家より神事料として寄進されていた。応仁の乱以後も度々火災に遭い、寛政5年（1793）に現在の地に移された。³⁻⁴⁾

桓武天皇は猿田彦神の託宣によって平安遷都を決意され、勅願によって社殿を造営したと伝わる。

相国寺周辺

- 1-1

上京区役所HP『上京区の史跡百選』
- 1-2

妙顕寺HP
- 1-3

京都観光NAVI
- 1-4

本法寺公式HP
- 1-5

上京区役所HP『上京区の史跡百選』
- 1-6

京都観光NAVI
- 1-7

京都観光NAVI
- 1-8

京都観光NAVI
- 1-9

京都市景観政策課HP『上京小川歴史的景観保全修景地区歴史的景観保全修景計画』
- 2-1

相国寺オフィシャルサイト、『京都の地名』（平凡社）
- 2-2

京都観光NAVI
- 2-3

京都市歴史資料館 情報提供システム フィールドミュージアム
- 2-4

京都観光NAVI, 「京都大事典」淡交社ほか
- 2-5

上京区役所HP『学区案内』室町学区（むろまち） ※上京区120周年記念誌（平成12年3月31日発行）, 都市歴史資料館 情報提供システム フィールドミュージアム ほか
- 2-6

京都市歴史資料館 情報提供システム フィールドミュージアム ほか
- 2-7

猿田彦神社境内前由緒駒札、上京区役所HP『上京区の史跡百選』
- 2-8

公益財団法人 冷泉家時雨亭文庫HP
- 2-9

be京都HP, 京都を彩る建物や庭園HP
- 2-10

同志社大学オフィシャルサイト、致遠館跡考古調査資料
- 2-11

上京区役所HP『学区案内』室町学区（むろまち） ※上京区120周年記念誌（平成12年3月31日発行）から抜粋
- 2-12

上京区役所HP『学区案内』室町学区（むろまち） ※上京区120周年記念誌（平成12年3月31日発行）から抜粋
- 3-1

御霊神社公式HP、『京都の地名』（昭和54年）平凡社、『京都の大路小路』（平成15年）小学館
- 3-2

京都市文化財保護課HP『京都 剣鉾のまつり調査報告書』
- 3-3

水田玉雲堂店頭で配布の解説紙より
- 3-4

上京区HP『上京区の史蹟百選』